

池田 謙次 ・ 神山哲太郎 ・ 大西 厚子
藤田 広美 ・ 大野 正和

公明党議員団



池田謙次
議員

【1Rの現状と今後について】

知事が申請しないと決断した理由「自然環境調査が間に合わない」しかし、「50ヘクタール以下の場合、調査の必要なし」と道の環境条例であります。必要のないとされる調査を市民に配慮しおこなっているもので、その点を断念の理由とした真意を聞きました。

【勇払地区お風呂問題について】

70歳以上の単身世帯で11月から開放され、現在24名の方が利用し喜びの声があがっています。

【学校給食の無償化について】

小中学校給食の第三子以降の無償化が20年10月スタート。システム改修などで新年度の4月スタートは間に合わず残念でしたが、大きく前進しました。



藤田広美
議員

常任委員会での質疑（抜粋）

総務委員会では、新たな行政改革プラン素案のICTの活用を質

疑しました。RPA^{※2}の導入では人事管理業務や市民税業務などで実証試験を行い、AIの活用は庁内向けヘルプデスクとして導入し検証する、民間委託の拡大では電話交換業務について有効な手法を検討しながら民間委託の取り組みを進めると答弁がありました。新苦小牧情報化計画案では、災害時に役立つ被災者支援システムに地図情報(GIS)の活用や全庁的に使えるGISの一体化を提案しました。タブレットを搭載した消防・救急活動では、翻訳アプリによる多言語対応や傷病者の画像転送・救急搬送先の特定などの効果があり検討していること答弁がありました。



神山哲太郎
議員

ふるさと納税の新たな展開について質問し、企業版ふるさと納税

では、総合戦略を進める上で有効な手法で、企業は税控除のメリットがあり、寄付件数の増加が予想されることから提案しました。他の自治体も参考にしながら取り組んでいきたいとの答弁がありました。

発達障がい児への切れ目のない支援について質問し、発達・教育支援システムなどの取り組みを求め、まずは、教育・福祉のスムーズな連携と保護者の利便性向上から個別支援計画などの書式を統一することを積極的に協議したいとの答弁がありました。

その他、肺炎球菌ワクチンについて質問しました。



大西厚子
議員

不登校対策で、スクールソーシャルワーカーの担当件数が年間一人あたり約200ケースの実態を受け、人員増の体制強化を提案しました。人員数は厳しい状況だが、支援の質の向上のため研修をおこなっていること答弁がありました。

適応指導教室の施設の拡大を求め、必要性を認識し、利用可能な施設などがないか調査研究をすると答弁がありました。ICTの活用や訪問教育の検討、フリースクールなどの学びの場の拡大について質問しました。

ほか、ESD（持続可能な開発

のための教育）について、多胎育児支援について、妊婦・配偶者などの禁煙対策について、インフルエンザワクチンの助成についてなど質問しました。



大野正和
議員

各種公共施設における福祉サービスについて、全公共施設で貸し出し用の車いすがない割合は約3割ということを聞き、「ふくしのまちづくり苦小牧」で配置すべきと提案しました。さまざま用途に活用できると19年度中に全公共施設に配置すると答弁がありました。

苦小牧市こども通園センターおそら園の療育支援体制について質問しました。障害児通所支援事業所は市内25カ所、おそら園は令和2年度から北海道が進める「一市町村中核子ども発達支援センター」へ移行するとの答弁がありました。民間事業所への支援や幼稚園保育園への支援、児童やご家族相談支援が充実されます。行政の情報化について、雇用の対策についても質問しました。

※2 RPA→ロボティック・プロセス・オートメーションの略で、認知技術（機械学習、人工知能等）を活用した業務の効率化、自動化の取り組み。